

2014.3.30 森林立地学会主催シンポジウム
『森林立地学における新たなアイデアの適用と応用』

さいたま市・大宮ソニックシティで行われた第 125 回日本森林学会大会の関連研究集会として、3 月 30 日に森林立地学会シンポジウム『森林立地学における新たなアイデアの適用と応用』を開催しました。

丹下会長からの挨拶、シンポジウムの趣旨説明の後、はじめに、東京大学大学院の磯部一夫氏より、『微生物群集動態をみることは森林の物質循環の理解を深めるのか。』と題する発表がありました。微生物群集の動態をメタゲノム解析により機能的に分析する手法への関心は高く、会場から多くの質問が出されました。

続いて、長野県林業総合センターの戸田堅一郎氏より、『航空レーザ測量データを用いた C S 立体図（微地形図）の作製と微地形判読』と題する発表がありました。地形判読を簡単にする C S 立体図の作成方法とその利活用に関する発表は、多くの応用例が期待できる内容を含んでいました。

最後に、森林総合研究所関西支所の岡本透氏より、『温故知新 - 自然科学研究における歴史資料活用のすすめ - 』と題する発表がありました。多数の事例を交えながら、自然科学研究において図像および文字資料を用いることの有効性について説明がなされました。

総合討論では、各講演者に対する個別の質疑応答の他、現在の地図や知見をどう後世に残していくのかといった総合的な質問も出され、時間一杯まで活発な議論が行われました。

ご多忙中、大変有用な発表を準備していただいた講演者の方々に感謝申し上げます。
本シンポジウムに関する特集記事は森林立地 56 巻 2 号に掲載される予定です。



（文責 事業幹事 志知幸治）